

ひとみがキラキラ輝く町にしたいね。

黒崎町 わたしたちの住む町。
未来の黒崎町 子供たちの住む町。
二十一世紀は今の子供たちが主人公です。わたしたちが今しておかなければならぬこと。家庭で親としてすること。地域でした方がよいこと。大人だけでなく子供にも住みよい環境とは。教育の面からみて町の問題は。親として、母として町を考えると。今あるもの。足らないもの。不備なもの。黒崎町の近未来のビジョン。小さなひとみは大きな未来を見えています。そんなことを、新年に当たり、三人のお母さんと青木町長が話しました。

会 談 座 春 新 '87



子供と教育の面から見た黒崎町の現状と、望ましい姿がテーマ
町長ほか一同 あけましておめでとうございます。
司会 今日町長を囲んで三人のお母さんがたから、子供と教育の面から見た黒崎町の現状と望ましい未来をテーマに話してもらいます。
驚尾 子供たちとよく町の図書館を利用して見ます。
司会 図書館の本の量は。驚尾 今のところ十分ですが、

子供は成長するにつれいろいろな本を欲しがりますから、これから増やしてほしいですね。伊藤 うちが北部地区公民館が近いものですから、子供が卓球に行ったり、暖かいときは河川敷公園に行っています。もう少し近い所に公園があるとよいのですが。
町長 町でも第三次総合計画の中で、セントラルパーク構想があるんです。大きな公園を造ろうと。将来は今よりは余暇が持てるでしょうから、ゆとりのある生活を生かす公園は必要と考えています。

出席者 写真右から

驚尾 好栄さん

33歳、黒鳥四。小学四年生と一年生、四歳のいずれも女の子のお母さん。四年生にはピアノ、一年生には水泳を習わせています。二週間に一回子供たちをつれて図書館に通っています。

伊藤 フキ子さん

37歳、上山田。中学三年と二年生(女子)と小学四年生の男の子のお母さん。公園などもっと親子で遊べる施設が小さくてもいいから近くにほしいと思っています。

坂井 シズ子さん

38歳、大明団地。高校生(男子)、中学生(女子)、小学生(女子)のお母さん。黒崎町に住んで十年になるが、みんな一緒にという気持ちに欠けるような気がしています。パートなどで働くことはいやではないが、子供たちのことを考えると一緒にいる時間をもっと増やしたいと思っています。

青木 太一郎 町長

大河原 千佳子
司会・テレビ新潟アナウンサー

子育ては地域、町をよくすることも 驚尾さん
近くに親子で楽しめる公園があれば 伊藤さん
すべての地域に子供会がある黒崎町 坂井さん
町づくりは人づくり、人づくりは町づくり 青木町長

子供の将来を考えれば大人たちがいい環境を作らなくては

司会 町のイメージなどをお聞かせください。
伊藤 黒崎は好きです。施設も整っていると思いますし、ご近所関係もうまくいっていると思います。
驚尾 あいさつ通りはともよいアイデアですね。でも、

もっと大人が子供たちに積極的にあいさつしていくとよいと思うのです。
坂井 黒崎町は新潟市の生活圏に入っていて、住みよいのですが、特長がないと思います。

町長 子供の将来を考えれば大人たちがいい環境を作らなければならぬと思います。町もそのためにやるべきことがあると思います。新潟市の表玄関として道路網の整備、ま

た新潟市の副都心的な機能も将来果たさなければならぬでしょう。文化的な町にもしたい。農業も大事です。特産物としては切り花や黒崎茶豆。付加価値を付けて、特産品で町おこしをしていきたい。大

野町商店街の活性化、観光開発も今年から進めていきたいと思っています。いずれにしても財源が必要です。そのために企業誘致を進めています。特に国道8号線沿いに優良企業

坂井 小、中、高と三人の子供がおります。下の子はよく総合体育館に行っています。中学生、高校生になると、学校が主であり町の施設は使わないようですね。

大人どうしがいい関係なら子供どうしもいい関係

司会 坂井さんは新潟市のご出身だそうですが、黒崎町との違いなどは。
坂井 あまり変わりません。どこに住んでも人間は一人では生きていけませんから隣近所といい関係を持ちたいと思っています。大明団地では行事などみんなで頑張っていていともよよいと思っています。大人どうしがいい人間関係ならば子供どうしもいい関係になると思います。

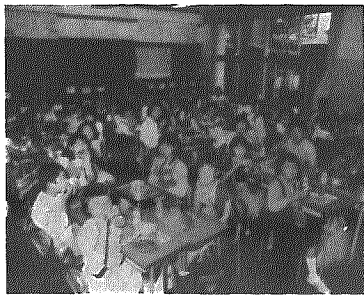
伊藤 子供会が活発ですね。坂井 この地域にも子供会があつて、これは黒崎町の特徴じゃないかしら。
町長 町でも子供会をはじめ青少年の健全育成には力を入れています。青少年健全育成町民会議や高校生を持つ親の

かしたい。利用して無雪道路も可能でしょう。だんだん大きな計画になってしまい、実現しようとするのだんだんわたりも行政側には苦しみになってきますが、頑張ります。伊藤 山田小学校のグラウンドの狭さ。長い間町の課題の一つですが。
町長 山田地区は国勢調査で五年間に四一%も人口が伸び、我々も十分検討しています。驚尾 黒鳥から中学へ通うのにバスが少なくとても不便なんです。車で送り迎えするのきもあるらしいです。
坂井 中学が一つですから通学の足をしっかりとってほしいですね。

町長 わかりました。

子供だけでなく地域全体、町全体をよくしよう

司会 最後に子供たちにとって最後に子供たちにとつて



会などがあります。子供が中心の子供会にしていってほしいと思います。

伊藤 受験ですの塾に通っているんです。子供も賛成しましたし。受験はほんとにたいへんですわ。
坂井 大野小でのアンケートをとったんです。お父さんに望むことは怒らないで、お酒やたばこに気をつけて、お母さんへは仕事から早く帰ってきて、なんです。それから、学年が上がるにつれて、もっとゆとりがほしいという子供が増えるんです。子供がゆとりをほしいとは。そんな時代なのではないですか。

町長 わたしも二人の子がいますけど、小さいときはいいんです。中学生、受験、高校生のころからだんだん会話が少なくなつてしまふ。やはり、できるだけ子供と一緒にいて、親子のふれあい健全育成につながると思うのです。寝る前のおやすみ、朝のおはよう、この二言でも違います。父親はじっくり話す機会を持つてほしいですね。

黒崎町はどんな町なんですか。それをお話してください。
坂井 中学三年生で、今年が雪が少ないからいいねとだれかが言ったら、別の子がうちのお父さんはスノータイヤを売らなければならぬから困っていると言ったんだそうです。なんでもない話のように思えますが、今、こういう会話ができる学校は少ないと思います。自分で話せる関係はとていいと思います。
伊藤 温かい話ですね。黒崎町はまだ三世大家族が多い方ですから、それも子供たちにいい影響を与えているのでは。驚尾 地域でも活動が活発だと思えます。子供だけでなく地域全体、町全体がよくならないといけないと思います。

町長 町づくりは人づくり、人づくりは町づくりです。教育についてこれからは真剣に取り組んでいきます。皆さんからもたくさんのご意見を出していただき、青年の瞳が輝く町にしたいと思っています。今年も町政へのお力添えをよろしく願っています。

この座談会の模様は一月四日TNNテレビで放送される予定です。広報では一時間にわたった話合いの内容をほぼ再録しました。